

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200507		
法人名	有限会社 久里の里		
事業所名	グループホーム久里の郷		
所在地	唐津市久里1130-8		
自己評価作成日	令和元年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年7月12日	外部評価確定日	令和元年8月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あなたの家族をグループホーム久里の郷に入居させたいですか？・・・させたくないことを思い浮かべて逆の援助を実施すればより良い施設になるのでは・・・と会議の席で常々話している。良い睡眠・良い食事・良い排泄の三本柱を心がけながら援助することが大切である。自分がされて嫌なことは言わないししない！をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角にあり、緑に囲まれ、車通りも少なく、静かな環境にあるグループホームである。理念は職員に分かりやすくという事を第一に考え「自分がされて嫌な事は言わない、しない」というモットーを掲げている。会議や勉強会でも、このモットーを伝える事によって、ケアを行う際立ち戻りやすく、実践に繋げやすく、実際に働いている職員にも浸透している。管理者は、利用者、職員・家族の双方を大切に考えており、利用者に一斉一律のケアをせず、個人のペースで自由に過ごしてもらえようという事を考えられている。また、希望があれば外出支援も楽しみや笑顔のためにと支援されている。働くご家族への配慮で、状態報告や連絡はメールやラインで行っており、より密なやり取りができるため関係性も築けている。職員にも、会議や勉強会ではできるだけ参加してもらえよう時間設定を考え、研修も複数で参加できるように配慮している。研修や会議にかかる時間は、勤務外であれば費用や、交通費なども支給し、職員がスキルアップできる支援をしている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に久里の里の理念とスタッフに平易な語句でモットーを表示している。	「自分がされて嫌な事は言わないししない」をモットーとして掲げており、難しい言葉よりも簡単な言葉で誰にでも伝わり実践に繋がられるようにという思いから作られている。モットーは玄関の入口に誰からでも見えるように掲示されている。職員にケアを見直してほしいときなどに、このモットーを伝え、ケアを考えてもらうきっかけにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民が訪問いただき、季節の野菜や果物・魚・獅子肉・ピザなどを届けていただく。緊急時避難橋よとして活用いただけるように看板を接している。また、駐車場なども自由に使用して頂いている。地域の祭りに参加している。	近所の方が焼きがまを持っているため、ピザや焼き芋などを持って来られたり、みかんや野菜など季節の物も持って来られている。そういうやりとりをしている近所の方が何件もある。また、慶弔の際など、近所の方が駐車場を自由に使用することもあり、近所との関係づくりはできている。近隣の宅老所との交流もあり、入居者の方と夏祭りに参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関しての相談を自由にお受けすることを、地域の班長さんに度々お伝えしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で提案された事は翌月のスタッフ会議で発案実施している。	運営推進会議には区長や民生委員、住民の代表など地区に関わる方がたくさん出席されている。介護相談員よりヒヤリハットを活動記録に載せて欲しいと要望があり、現在は毎回載せるようにしている。グループホーム側が地域の方などの相談にのる事も多く、これまでも認知症や成年後見制度、脱水など地域で生活されている高齢者の方にも役に立つ勉強会などを開催している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議には市町村の担当者が必ず参加されている。	グループホーム連絡会を2か月に1回開催しており、そこに市の職員も参加をしてもらっている。運営推進会議にも参加しているため、グループホームの運営状況なども理解されている。制度上などで分からない事は聞いたり、教えてもらったりし、関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年4月に身体拘束・虐待・個人情報保護について勉強会を実施している。なお、毎月スタッフ会議開催時何度も説明している。	玄関の施錠を含め、身体拘束は行っていない。年に1回、身体拘束や虐待などの勉強会を行っているが、毎月のスタッフ会議でも身体拘束を行ってはいけない事を伝えている。運営推進会議の委員が会議後に居室をチェックし拘束が行われていないかの確認をしている。職員の意識付けにもつながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4月に身体拘束・虐待・個人情報保護について勉強会を実施している。なお、毎月スタッフ会議開催時何度も説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定と重要事項説明について読み合わせを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の毎月の訪問と3か月毎の報告書内容についてスタッフ会議で共有している。	3か月ごとに、介護相談員からの活動結果が報告される。その中には市のグループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設など施設の「良い点・気になる点」の結果が記載されているため、スタッフ会議で職員と事例を共有している。その内容を共有する事によって、職員の意識づけにもなっている。 ご家族とはEメールやLINE(SNS)でもやり取りをしているが、面会に来られた時は「何でも気になる事は言ってください」と声かけし、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一日にスタッフ会議を行いスタッフの要望などを聞いている。	スタッフ会議時に職員の要望などは聞いており、普段からも要望が言いやすい雰囲気づくりを作るよう気がけている。話し合いも、報告はしてもらいが、できるだけ職員で話し合い決めるように促している。 また、職員も長く続けてもらえる事が利用者にとっても良いことと考えている為、働きやすさも考慮し、勤務に関する職員の希望は叶えるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的にスタッフの意見聞き希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのキャリアアップのため資格取得に対しての費用や時給を会社で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年より唐津グループホーム連絡会を立ち上げ2か月ごとの研修を実行している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集をしっかりと本人の意向を早く分かるようにしている。事前に病院や前施設に出向いての聞き取りを実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望と個人の希望を丁寧に聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早く施設になじんで頂くことを最優先して、同時に良い睡眠・よい食事・良い排泄の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護援助しながら本人の表情変化に気を付けることを大事にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望を素直な気持ちで受け取るように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・知人・友人の関係にアセスメント参考発言があるので積極的に会話参加を指導している。	家族や親せきの方からは、入居者のこれまでの生活歴や関係を聞き、ケアに反映するようにしている。 遠方から親戚の方が来られた時は、グループホームに泊まれることもあり、いつでも泊まって良い事を伝えている。家族の方と外出をされることもある。面会に来られていた親戚の方が施設に入られたため、2週間に1回、利用者の方を施設に連れて行く支援をしており、とても喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を最優先して仲間はずれにならないように目配り・気配りに注意するように指導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設移動されたり、自宅復帰された方に連絡し近況をお聞きしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議の前に本人と家族の要望を聞き取りしている。普段の生活で表情の変化に注意するように指導している。	ご家族も仕事をされている方が多いので、家族とはEメールやLINE(SNS)でやり取りを行っており、意思表示ができない利用者の方の要望などはご家族から聞くように心がけている。「入居者の方にどういう風に接したりケアをしたら、気持ちよく過ごしてもらえるか」を尋ねている。意向が聞ける利用者には、普段の生活の中から意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月モニタリングを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを活用し日課表に活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の前に担当医や訪問歯科の専門的な意見を収集している。	半年おきにケアプランを見直しているが、スタッフ会議では毎月全利用者の方に対し、ミニカンファレンスを行い評価をしている。サービス担当者会議ではほとんどの職員が出席するようになっており、ケアについて共有している。ご家族には、事前に要望を聞き、ケアプランの中に入れていく。特に訪問歯科との連携を大事に思っているが、協力医とも連携が取れている為、ケアプランの内容に対しアドバイスや意見をもらっている。現状に即したケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別介護記録を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の性格と嗜好・趣味を大切にされた援助に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思を最優先する介護援助している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意思と家族の意思を最優先し担当医に伝えている。	協力医はいるが、他の病院を希望されても、それに応じるようにしており、強制はしていない。しかし、協力医が熱心で24時間対応して下さり、日曜日も来てもらえるので、ご家族は協力医を希望する事が多い。他科の病院はご家族ではなく、職員で対応している。受診に行った際は、ご家族に電話かメールなどで報告を行っているため、ご家族も安心されている。月に4回訪問歯科も来られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が訪問し個人の状態と意思の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による認知症の進行に注意してできるだけホームに早く復帰できるようにアドバイスし入院中は2～3日毎に訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態をよく把握しよりベターな方法を提案している。系列の小規模多機能や看護小規模多機能施設との連携を計っている。	看取りを希望された場合、施設での看取りを行っており、昨年も数名看取りケアを行った。協力医との連携が図れている事と、系列の小規模多機能施設から看護職が来るため職員も安心してケアができています。看取り後は、家族へフォローも行っている。希望は変化しますが、管理者は施設で看取りを希望されている利用者、家族にとって病院で亡くなる事がないよう、グループホームとしての役割をしっかりと果たしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師のオンコールと担当医の常時連絡を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と、水害や原子力避難についてスタッフ会議で実情に合った避難方法の指導を行っている。	避難訓練は年に2回(4月・10月)行っており、1回は消防署の立会いのもと、夜間想定訓練も行っている。消防署からのアドバイスをもらう事もあり、改善につなげている。非常食も水、お米、味噌など準備しており、2,3日は屋内退避できるようになっている。今年中に自家発電機の設置も検討している。グループホームが地域の避難場所になる事も想定し、施設外に地域の方に向けた看板も設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やわらかい対応と声掛けの指導している。	声かけについては、「利用者に不快な思いをさせないよう」な声かけを行うよう教育している。普段からも、職員の声かけが気になる時はその都度伝えている。職員も勉強になるよう研修にも複数で参加できるよう促している。プライバシーに関しても、排泄の時や何かをする時はおおっぴらに見せず、扉を閉めたり何かの陰になるような配慮をするよう声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設の仕事の進め方に拘らない援助を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の仕事の進め方に拘らない援助を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	嫌がらない程度に着替えや手足のケアを行っている。時々マニキュア・ペティキアなど。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗やお皿の色、調理したものの色合いなどに注意するように指導している。体の動く方には簡単な作業のお手伝いをさせていただいている。	目が見えにくい方に食器の色を配慮したり、食事の彩りがよく見えるような配慮をしている。手伝いができる利用者は減っているが、茶碗の拭き取りや片付けなどできる事は一緒に行っている。管理者の「家庭料理を食べて欲しい」という思いから、献立も職員が旬のものを採り入れるようにしており、おせち料理などの行事食なども職員が作っている。外出ができる利用者は、他施設のイベントにも連れだし、楽しんでもらっている。時には、外部からお弁当をとったり、外出の際は稲荷寿司や巻きずしなどを購入し食べたりもしている。夜間お腹が空いた時には、パンやおにぎりなど職員が作り臨機応変に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食とAM/PM水分の補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	尿量目視と回数の記録をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ自立排泄できるような援助を指導している。	リビングにトイレが3か所あり、それぞれの居室に近い場所にトイレがあるため、できるだけ、トイレで排泄をしてもらうようなケアを心がけている。現在オムツの方は2名だが、7名の方がトイレで排泄できている。オムツもコストがかかるため、できるだけ負担にならないような配慮をしている。排泄に関しては日誌に記録をしており、職員間で情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	良い排泄がいかにか心に身体に影響するかを会議の度に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	事前にバイタルを測り本人の意思を確認して実施している。	毎日お風呂は沸かしているので、臨機応変に対応ができる。週に2回～3回の入浴で、希望によって回数を増やしている。利用者が嫌と思う時は強制せず、日にちをずらしたり、時間をずらしたり、清拭で対応したりしている。そのため、曜日によって入る利用者を決めていない。冬は、事前にシャワーで浴室を温めたり、オイルヒーターなども取り入れて寒くないような配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良い睡眠を得るために日中はリビングで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で服用できる方と手渡し・嚥下の確認と分けて、緩下剤を特に注意しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で服用できる方と手渡し・嚥下の確認と分けて、緩下剤を特に注意しながら援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	簡単な日常仕事はできるだけ入居者に声掛けしていただいている。	以前は週に2.3回は3.4人一緒に外出していた。買い物だけでなく、県外など遠方にもよく行っていた。現在は近くのスーパーなど買い物と一緒に連れ出す事はある。個人の希望で近くの施設に2週間に1回親戚の面会に連れて行っている。希望があれば、車椅子の方も外出できるよう大型車も準備しており、いつでも乗れるようになっている。職員の配置も、外出できる人数は確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通帳を気にされるのでカラーコピーで作成して渡している要求そのものがない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話は自由にさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の自由に任せているが廊下やトイレの照明は判りやすい色など考慮している。黄色から白色に変化した。	リビングに面した所にテラスがあり、そこでは犬も飼っており、リビングから木や緑が見え、大きな声や大きな音が聞こえる事もなく、利用者の方も落ち着いた生活を送られている。テーブルは、入居者同士の関係を配慮して配置されている。洗面所はリビングの陰にあり、口腔ケアの際にあまり見えないような配置になっている。管理者は、センサー音は職員にとって良い音ではないと考え、使用されていない。その代替えとして、鈴を使用しており、利用者・職員が不快にならないよう音にも工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々ベランダでのお茶タイムの実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷蔵庫や仏壇の持ち込みも自由に任している。また、毎朝ご飯とお茶をお備えしている。	居室には写真やタンス、テレビ、仏壇など個人の持ち物がたくさん持ち込まれている。以前は冷蔵庫や電子レンジなども持ち込まれたこともあった。食事後にお部屋で過ごしたい利用者やリビングで過ごしたい利用者などさまざまで、利用者のペースで過ごされている。管理者も、一斉に何かをしたり、同じ日課で過ごす事は違うと考えており、利用者の思いを大事にされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋らしくして頂き自由に任せている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない